

東日本大震災における復旧復興関連作業

2011(平成23)年3月11日午後2時46分、宮城県牡鹿半島沖130kmの海底を震源とするマグニチュード9.0の大地震が発生、青森県から千葉県太平洋沿岸部がその揺れと大津波により壊滅的な被害を受けた。東日本大震災である。当社はこの震災発生後、直ちに震災復旧・復興対策本部(本社)と現地対策本部(東京支社)の体制を確立して対応にあたった。東京支社や横浜支店の所在地域では、計画停電や物資の供給路の混乱により燃料や食料品が不足して事業継続に困難な状況ではあったが、被災地を慮り挫けず活動を続けた。被害の少なかった支社・支店は支援物資を調達し東京や横浜に搬送、また人的にも応援者を派遣するなど全社を挙げこの災厄に取り組んだ。

この広範囲にわたる被害は想像を絶するものであった。尊い人命が多く失われ、家屋や船舶などの財産もことごとく流された。当社が行った船舶の救助や残骸の引揚げ、救援物資の搬送は、微力ではあるが、途方に暮れる現地の人々の再生の第一歩を海から支援するものであった。復興事業はまだ道半ばだが、当社は持てる力を集結させて継続的な東北地方太平洋沿岸域の復興に取り組んでいる。

気仙沼港での海難救助

当社は、宮城県気仙沼港で遭遇した漁船の救助・引揚作業を一手に引き受けた。2011(平成23)年3月31日から、海難救助船・新竜丸や旋回起重機船・第53善徳丸、作業基地兼ホテルシップ・新潮丸などを現地に派遣した。4月25日から地元商工会議所や気仙沼造船共同組合の協力も得て、本格的な救助作業を開始した。その後富士や大和も合流し、9月までの6カ月間で被災漁船40隻を始め小型タンカーやプレジャーボートなど合計53隻、流出した重油タンクや多くの残骸などの救助と引揚作業を行った。

気仙沼港での救難活動



作業船吊卸・進水作業



船骸撤去



123号 船骸解体

元南極観測船「しらせ」、環境保護船、メガフロートなどの曳航

千葉県船橋港に係留していた、(株)ウェザーニューズ所有の元南極観測船「しらせ」を福島県の小名浜港まで曳航した。東日本大震災の被害状況、放射線検査などの海洋観測を行うための緊急作業であった。

また被災地の海洋流出ゴミ回収のため、国土交通省の環境保護船が派遣されることになった。遠距離航行をしたことのない環境保護船を、神戸・和歌山・名

古屋から被災地まで回航させ、航路啓開作業に貢献。この対応が評価されて、後日当局からの感謝状を拝受した。

震災を起因とする福島原子力発電所事故では、放射能に汚染された水の処置が重要な課題となった。行き場のなかった放射能汚染水を緊急貯蔵するため、急速地方で海釣り桟橋などに姿を変えていたメガフロートが活用されることになり、清水港にあったメガフロートを横須賀まで曳航することとなった。

漁船吊降・進水作業



元南極観測船「しらせ」曳航作業



火災船 船骸撤去



清水港メガフロート(放射能汚染水貯蔵用) 曳航作業

